

白山ふるさと文学賞

第六回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

小学生5・6年作文の部 最優秀賞

ぼくの将来の夢

明光小学校六年

宮本 みやもと

宏保 ひろやす

ぼくの将来の夢は、五才の時に決まりました。

きっかけは、幼稚園の遠足で、石川県立ふれあい昆虫館に行ったことです。幼稚園のころから、ぼくは昆虫が大好きで、近所であつたジョロウグモを飼育ケースに入れて、いっしょに幼稚園に通っていたくらいでした。ぼくにとつて、ジョロウグモは友達のような存在でした。その思いが月日を経て、ぼくの「昆虫館の職員になる。」という夢をつくつていったのです。

今でも、家でメダカ、ドジョウや金魚、ニホンカナヘビ、クワガタなどを育てています。また、庭にはミカンの木があるので、アブラムシやそれを食べるテントウムシ、それを防ぐアリ、葉を食べるアゲハチョウ、そしてその幼虫をねらうアシナガバチなど「生き物の食べる、食べられる関係」を観察することができます。

いろいろな生き物を育ててきて分かつたことは、自然の生き物を育てることはとても難しいということです。ぼくは、まだ一匹だけでも、えさやりや温度管理が大変です。でも、昆虫館の飼育係は、たくさんの種類を何十匹、何百匹と育てています。そして、広い園内できちんと温度、光、湿度などを管理して育てているのがすごいと思ひ、やってみたくありませんでした。

ぼくは今、石川県立ふれあい昆虫館友の会に入会して、観察会に参加し、昆虫の名前や特ちょう、標本の仕方について勉強しています。また、昆虫館の裏側探検にも参加しています。ここでは、ふ段見ることのできないチョウの幼虫を飼育する部屋も見せてもらうことができました。昆虫館の飼育係になったらこんな風に幼虫を成虫になるまできちんと育ててみたいですね。例えば、チョウの幼虫は病気に感染したり寄生バチに寄生されたりするので育てるのが難しいです。まず、成虫をきちんと観察して飼うことから始めて卵を産ませて幼虫を成虫まで育て、その昆虫がどんな一生を過ごすのか明らかにしていきたいと思ひます。そして、いつかは、世界のめづらしい昆虫を飼育することにチャレンジしたいと思ひます。

います。

観察会に参加すると、昆虫館の飼育係さんからいろいろなことを教えてもらえます。先日はオトシブミがどうしてその名前になったかを教えてもらいました。葉をあごで切りながらくると巻いていき、中に卵を産みます。その葉の形が昔の手紙の巻いた形に似ているそうです。また、イラガの前ようの特ちょうについても教えてもらいました。まゆの中でイラガの前ようはとてもぷっくりした形をしています。これは寒い冬に備えているそうです。マイナス三百度くらいまでたえられるそうです。ぼくはこんな小さなイラガの中に冬をこすための工夫があることを知つておどろきました。

以前は、動物園や水族館で働くのもいいなと思つていましたが、やはり昆虫が一番近くにいる存在で、それなのに知らないことがいっぱいあるという魅力があります。だから、今は昆虫館で昆虫を育てる仕事が自分に合つていのではないかと思つています。

昆虫館の飼育係は、昆虫について調べたり、新種を発見したら発表したりしなくてはならないので、日本語の文献だけでなく、英語の資料や論文を書いたり読んだりしなくてははいけません。だから、これから英語をがんばりたいと思ひます。それから、中学校、高校では理系の勉強をしたいと思ひます。理系では数字、科学、生物が学べるので、昆虫を育てる仕事にきつと役立つと思ひます。また、昆虫が住んでいる環境やエサについても知らなくてははいけません。昆虫館友の会の大人の人はちはいつも「昆虫のことだけ見てもダメだよ。植物のことも知らなくてははいけないし、昆虫以外にもどんな生き物がどこにいるか知つておかないと、昆虫のことは分からないよ。」と言ひます。

それから、昆虫を観察するときには山を登つたりもするので、小学四年生から白山登山にも挑戦しています。去年はサンショウウオを見ることができてうれしかったのですが、クワガタはほとんど見ることができず

残念でした。朝早くでないで見られない昆虫がいたり、何回も行ってやっと目的の昆虫に出会えたりすることもあるので、体力やあきらめない強い心も必要だと思います。

ぼくは、昆虫に詳しいことはもちろん大切だけれど、それだけでは昆虫館に来てくれた人を楽しませることはできないと思います。自分で発見したことを伝えたり昆虫とふれ合う楽しさを昆虫館に来てくれた人に伝えたりできる飼育係になりたいです。「虫こわい、気持ち悪い」と言う人もいます。けれど、昆虫についての豆知識などを知ってもらおうことで昆虫を身近に感じて好きになってもらいたいなあと思います。

ぼくはこれからも、石川県立ふれあい昆虫館の飼育係のように「昆虫って不思議だな、面白いな」と感じながら昆虫を育てていきたいと思いません。

